海外就職研究家
株式会社スパイスアップ・アカデミア　代表取締役

森山たつをさん

「日本の教育として足りなかったものが、これからは表面化してくる時代になる。私はそれを補強するための教育をしたい」

「海外就職研究家」として活躍する森山たつをさん。現在は学生を対象に、日本人を「出入自由に」を体現すべく、海外で働く体験ができる実践型インターンシッププログラム「サムライカレープロジェクト」をカンボジア・プノンペンにて行っている。スタートしてわずか3年で年間300人以上の学生が参加し、21校の大学等がオフィシャルプログラムとして導入。同プログラムによる「海外で働く体験」が学生、そして大学に支持される理由は何なのか?プノンペンから帰国したばかりの森山さんに聞いてみた。（インタビュー・構成　伊藤秀範）

もりやま・たつを
1976年生まれ。早稲田大学卒業後、日本オラクル、日産自動車などに15年勤務の後、日本人の海外就職に関する調査・研究を行う「海外就職研究家」として独立。3年前からは日本人を「出入自由に」を体現すべく、海外で働く体験ができる実践型インターンシッププログラム「サムライカレープロジェクト」をカンボジア・プノンペンにてスタート。現在、プログラムを6ヵ国（カンボジア、インド、スリランカ、タイ、ベトナム、スペイン）に拡大し、サムライインターンとして運営を行っている。2018年から専門職大学客員教員、インフィニティ国際学院プログラムナビゲーターなどに就任。著書に「セカ就」（朝日出版社）「普通のサラリーマンのためのグローバル転職ガイド」（東洋経済新報社）などがある。

編集長インタビュー

学生の〝海外で働く〟体験希望者が増加

筆者の森山さんへのインタビューは今回で3回目になる。本誌にも過去に一度、「世界人材獲得競争の中の『人材紹介業』の存在力」という2015年当時に連載していた本誌記事において、取材をお願いした。当時はカンボジアのプノンペンで「サムライカレープロジェクト」という海外起業体験プログラムを始動させていた森山さん。海外で働くグローバル人材の現状と併せて、海外の人材紹介ビジネス事情などについて話をうかがったと記憶している。

「サムライカレープロジェクト」は、〝海外起業体験〟とあるように、当時は海外で働くことに興味・関心がある社会人を主な対象にしていた。今回は約4年ぶりのインタビューということで、予備知識として森山さんのフェイスブックなどを拝見。すると、以前からの「海外就職研究家」だけでなく、株式会社スパイスアップ・アカデミア代表取締役、桃山学院大学兼任講師、i専門職大学客員教員、インフィニティ国際学院プログラムナビゲーターなど、肩書がいろいろと増えている。まずはそのあたりの確認も含めて、近況を聞いてみた。

「確かに4年前までは、海外で働いてみたいという人を対象に、カンボジアのプノンペンで起業体験をしてもらうプロジェクトに携わっていました。今は対象を学生に絞り、実践型海外インターンシップというプロジェクトに完全移行しています。

その背景には、3年ぐらい前からプロジェクト参加メンバーに大きな変化が現れました。海外で起業体験をしたいという人よりも、海外で働く体験をしたいという学生のほうが目立ち始めたのです。

なぜ学生の参加者が増え始めたのか。学生にその理由を聞いてみると、純粋に海外でいろんな体験をしてみたいという声とともに、『就活に役立つので。参加してみたい』という声もかなりありました。

実際、過去にサムライカレープロジェクトに参加した学生には、卒業後、海外勤務のある商社に就職する人の割合も非常に多い。具体的には採用面接の際に、プロジェクトでの海外体験がとても大きな自己アピールになったという感想もかなりありました。

なるほど。それはそうだろうな、と思いましたね。今の学生なら、単に海外体験があるという人は数多くいます。そして、企業面接の際に、入社後にグローバルを舞台に活躍したいという自分の夢を語ることぐらいなら、誰にでも言えます。

しかし、『私はカンボジアでカレーを作り、普段はカレーを食べないカンボジア人を相手に300杯も売上げました』という実体験を、自分の言葉で自信を持って語れる学生となると、おそらくほとんどいないはずです。

いろいろ調べてみると、日本の大学生は年間で80万人ほど存在し、その4分の1は毎年入れ替わります。今まで対象としていた海外で起業体験をしたいという社会人と比べると、規模的にもその差は歴然です。ならば、これだけ学生からのニーズが高いのだし、これはもう大学生向けに完全にシフトしてみようかと思ったのが、2016年から17年にかけてです」

大学のオフィシャルプログラムとしても採用

現在、森山さんが代表取締役を務める株式会社スパイスアップ・アカデミアは、「日本の若者を世界で戦える人財に育成する」をミッションに掲げ、実践型海外インターンシップなど のコーディネート、海外研修の運営などを行っている。また、実践型海外インターンシップには学生が個人で参加するのとは別に、大学によっては学生向けの単位認定のオフィシャルプログラムとして活用するケースもある。

「大学のオフィシャルプログラムとしてスタートしたきっかけは、プロジェクトに参加していた多摩大学の学生が、その成果発表を大学内で行ったことです。プノンペンでの学生の体験談を聞いていた同大学の先生から『このプログ

「就活で『私はカンボジアでカレーを作り、普段はカレーを食べないカンボジア人を相手に300杯も売上げました』と語れる経験をしてほしい」